

## ■トラック 1

……うん、大丈夫だよ？  
私ならいくらでも、甘えさせてあげる。

ね…いっぱい悩んで、疲れちゃってるでしょ？  
その疲れ、私が癒やしてあげようかなあって…。

ほら私って、お姉ちゃん系アイドルとしてはそれなりに  
人気があるでしょ…？

君はいつも天音さんのところに行っちゃうから、  
あんまり知らないかもしれないけど…

握手会に来てくれる弟君たち…あ、ファンの子のことなんだけど…  
よしよしーってしてあげると、すごく喜んでくれるんだ。

……ふふっ、本当に可愛いよね。  
私、そんな弟君達のことを、大好きなんだ。

だから…君も、私の弟君になってみない…？  
それも、もっと特別な弟君に…。

そしたら、よしよしだけじゃなくて…  
もっとすごいこと、してあげられるんだけどなあ。

……んー？ もしかして、天音さんや澄華ちゃんのこと、  
気にしちゃってる？

……もう。だから一、私は大丈夫って言ってるでしょ？  
私はただ、悩んで疲れてる君を癒やしてあげたい…それだけ。

けど、それでもまだ迷ってるんだったら…

その気にさせてあげよっかな。

ん…ふう。

……ふふっ。も一、目をそらさなくてもいいよ？  
別に、裸になるわけじゃないんだし。

ほら、こっち見て…？

これ、今日の新衣装なんだけど…どう？　可愛い…かな？

……ふふっ、やった。褒められちゃった。

ね…せっかくだから、もっと近くで見てもいいんだよ…？

あ、でも…さっきまでフェスに出てたから…

もしかしたら、ちょっと匂っちゃうかも…。

……あ、今ちょっとぴくってしたよね？

やっぱり…私、その…匂っちゃってる…かな？

すんっ、すんっ、すんっ…。

……んっ、んん…ふ、ふふっ、もう、嗅ぎすぎだっばあ。

ね…もしかして、女の子の匂い嗅ぐの…好きだったりする？

……へえ。

じゃあ…澄華ちゃんが言ってたこと、本当だったんだ？

……うん。私、澄華ちゃんとは結構仲がいいから。

相談に乗ったりすることもあるってね……。

だから、君のことも……いろいろと聞いているんだ。

……そ、なんでも。

だから…君の他の性癖も、ちゃんと知ってるよ？

例えばあ…耳舐め好きだってことも、ね？

ん…んれるう…。

ああ、んっ…ふふっ。

どう？　私の耳舐め、気持ちいい…？

……んふっ、そっかあ。初めてにしては、結構上手でしょ？

実は…澄華ちゃんに君が耳舐め好きって教えてもらってから、  
ずうっと練習してたんだ…。

だからあ…気に入ってくれたみたいで、嬉しいな。

ほら…君のためだけに練習した耳舐め…もっと味わって…？

ん、ああ…もう顔、とろっとろだね…？  
気持ちよくなってくれてるのは嬉しいけど…  
匂いは、嗅がなくてもいいのかな…？

好きなんでしょ？ アイドルの汗の匂い…

ほら…脇に鼻近づけて、嗅いでみて…？  
私、ライブが終わった後も汗を拭かないでここに来たんだよね。  
そうすればきっと…もっと興奮してくれるんじゃないかなって思って。

……んふっ。またぴくってした。  
今のは、なかなかドキッとしたんじゃない？

ライブ直後でムレムレなアイドルの身体なんて…  
匂いフェチの君にとっては、最高のご褒美だよね…？

私、人よりも汗かきやすいみたいだから…脇の所とか、  
結構濡れちゃってるかも…

……ん、んん…ふ、ふふっ。  
耳舐めされてるのに、こんなにがっついちゃうなんて…  
私の汗の匂い、そんなに気に入っちゃったんだ？

あ、それとも…アイドルなら誰の汗でも興奮しちゃったりして…？

……あ、ごめん。今のはちょっと、意地悪な質問だったかな。

けど…もう、興奮…してきちゃってるのは本当でしょ？

……だってほら、君の鼻息…すっごく荒いよ？

ふんっふんって…まるでワンちゃんみたいになってて可愛い…。

こんなになってるってことはあ…

おちんちんも、大変なことになっちゃってるんじゃない…？

……もう、誤魔化しても無駄だよ？  
だって、さっきからずっと硬いのが当たってるし…

……ふふっ、気付いてなかった？

私ならこのカチカチになってるの…  
スッカリさせてあげられるんだけどなあ…。

……ね、本当は期待しちゃってるんでしょ？  
否定しても、ちゃんとわかるよ？

君のここ、むくむくうってどんどん膨らんできてるし…  
格好いいこと言っても、本当はスッカリしたいって思ってるんでしょ？

今日だって本当は、澄華ちゃんにしてもらうつもりだった…  
だから、ここに居たんだもんね？

けど、それがなくなっちゃったから…切なくてたまらない…  
そうなんじゃない…？

……ねえ。早く素直になればいいのに…  
どうせ、流されちゃったら天音さんとか澄華ちゃんに申し訳ないとか…  
考えちゃってるんでしょ…？

……ほんと、変なところで律儀なんだから。

でもさ…ここ、こんなにカチカチにさせてるくせに…  
そんなこと言っても、説得力ないんだけどなー。

……ん、ふふっ。苦しそうだね？  
まあ、こんなにおちんちん勃起させてたら、無理もないか。  
ね…もう、我慢の限界でしょ？

……ん、ふふっ。  
何も言わないってことは、オッケー…なのかな？

別に、性欲に負けちゃったからって…恥ずかしがらなくてもいいんだよ？  
そうなっちゃうのは、すごく自然なんだから。男の子なら、なおさら…ね？

だから、安心していいよ…？  
私が君のたぎった性欲、発散させてあげる…。

このおちんちに溜まった精子…  
ぜえんぶ、びゅーびゅーって搾り取ってあげるから♪

……あ、んん…ふふっ、おちんちん出てきたね？  
ん、はあ…ああ、すごい…先っぽから、透明な汁もお漏らしして…  
ふふっ、可愛い…。

こんなになってるってことはあ…本当に、限界だったんだね？

……もう。そんなに恥ずかしがらなくていいのに。

ああ、でも…これじゃ、不公平だったかな。

君も出したんだし…私も、見せてあげないと、ね…？

ん…んん…。

ほら、これで、おあいこ。  
こんなところを見せるのは、君だけだよ…？  
どんな弟君にも、絶対に見せない…私の生おっぱい…

……ふふっ、喜びすぎだって。そんなにおっぱい好きなんだ…？

だったら、ほら…触ってみる…？

んっ、ああ…手つき、いやらしいね。  
ね…私のおっぱいも、結構大きい方だと思うんだけど…  
触り心地、どうかな…？

あ、ああ、ん……んふ、そっか。  
男の子って、おっぱいを触るとリラックス出来るんだって。  
でもね、もっと気分が落ち着く方法があるんだよ…？

……あ、気になる？  
それはね…授乳手コキっていうんだって。して欲しい…？

……んふっ。やっと素直になってきたね？

じゃあ…膝枕してあげるから…

そのソファにいこ…？

…はい、どうぞ？ 私のお膝に、頭のせていいよ？

……よしよし、いい子だね。

それじゃあ…はい、どうぞ？

私のおっぱい、ちゅーちゅーしてみて…？

その間、おちんちんしこしこおってしてあげるから…ね？

ん、んん…しこ、しこお…しこしこお…♪

んふっ…どう？ 気持ちいい…？

ん、あ、ああ…。もう、美味しそうに吸っちゃって…。

そんなに頑張っても、母乳は出ないでちゅよ～？

あ、ああ…ん…しこしこ、しこしこお…。

……あ。

もしかしてえ…赤ちゃん扱いされて、興奮しちゃった…？

ほら、おちんちんもびくんって跳ねちゃってるし…

つまり君は、アイドルに赤ちゃん言葉でからかわれて…

おちんちんビクつかせちゃう変態さん…ってことになるのかなあ…？

しこしこ、しこ、しこお…。

……んふふっ、心配なんてなくていいんだよ？

私は君がどんな性癖を持っていたとしても…

ぜえんぶ受け入れられるんだから…ああ、ん、

しこしこ、しこしこお……あ、またおちんちん跳ねて…

もしかして、もう出ちゃいそうだったりする…？

……ん、待って。まだ出しちゃだめ。

……その、別に意地悪で言ってるわけじゃなくて…

せっかく溜まってるんだし、限界まで我慢してから射精した方が

スッキリできるんじゃない…？

だから、ね…

君の大好きなおっぱいで射精させてあげようかなあって…

……んふっ、決まりだね。

じゃあ、パイズリしてあげるから、身体起こして…？

うん…それで大丈夫。

あとは私が…おちんちんを挟んであげれば…

ん、ああ…すんっ、すんっ…すっごく濃い匂い…。

これが、優秀な遺伝子を持つオスの匂い…ああ、ん…。

ん、んん…ああ、すっごく熱い…胸の間で、小刻みに震えて…

挟んだだけで、感じちゃってるのかな…？

……んふ。まあでも、仕方ないよ。

あんなに焦らされたら、おちんちんパンパンになっちゃうよね。

これから私が、金玉に溜まった精子全部吐き出させてあげるから…

んっ、んん…

……んふっ、気持ちいい？

顔なんか、蕩けちゃってるし…んっ、んん…。

私、おっぱいの柔らかさには自信があるんだ。

ふわふわのおっぱい、たっぷり楽しんでもくれると嬉しいな…。

あ、んん…また、我慢汁溢れてきちゃったね？

私のパイズリ気に入ってくれたんだ…？

でもね…これだけじゃないよ？

もっとすごいことして…君の勃起おちんちん、感じさせてあげる。

ん…んれるう…。

……んふっ。ああ、すっごくビクビクしてる…。

はあはあって息も荒くなって…ふふっ、すごく可愛い…。  
話に聞いてた通り…ここ、弱いんだ…？

それじゃあ、おっぱいの間から出てきた亀頭…  
もっとんれるっ、れるっ、れるうってしゃぶってあげるね…？

……んあ、ああ…んふっ、いっぱい感じてくれてるみたいだね？  
もう、我慢汁も止まらなくなってきたよ…？  
もしかして…射精も近いのかな…？

……んー？ 当然、初めてに決まってるでしょ？  
他の人にこんなことしないよ。んっ、んれるう…

……ん、だって…この方が気持ちいいでしょ？  
後は…君が特別な遺伝子の持ち主だから…  
理由なんて、それくらいで十分じゃない…？

そんなことより…  
ほら…難しいこと考えてないで、おちんちんに集中しよ？  
もう、出そうなんですよ…？ 君の優秀な精子…  
たっぷり私にかけて欲しいな…。

ん…ほら、ほら、精子出してっ…？ んっ、んれるっ、れるう…。  
君の熱くて濃厚な精液、全部私にちょうだ…？  
れるっ、んれるっ…んっ…せーのぉっ。

んくっ…！？ んっ、んっ、んうううっ…！  
んっ、はあ、はあ…んっ、ああ…はあ、はあ…。

ああ、すご…すごく熱くて、濃厚で…ああ、ん、れるう…  
一発で女の子を虜にしちゃう味してる…んっ、はあ、はあ…。

こんなの、おまんこに中出しされちゃったら…あ、んん…  
澄華ちゃんが夢中になっちゃうのも納得かも…。

……あ、ううん。なんでもない。  
…それで、どうだったかな？ 罪悪感のないエッチは。

……ん、そっか。悩み、軽くなったみたいだね？  
顔も結構スッキリしてるみたいだし、力になれてよかった。

……う〜ん、どうだろ。私はちょっと…あるかな。  
…まあ、私はアイドルなわけだし。

でも、君が気にすることはないんだよ？  
今回は、私が勝手にやったことなんだから。

ふう…

それじゃあ私は、シャワー浴びてこよっかな。

さすがに、このまま戻れないし…。  
……あ、そうだ。久しぶりに会ったのも何かの縁だし、  
また今度、会えるかな？  
……んふ、やった。約束、ね。